

# 環境経営レポート

対象期間：2022年5月～2023年4月



発行日：2023年6月30日



株式会社 KODAI



®環境省

エコアクション21  
認証番号0006914

## 目 次

1. 組織の概要(Plan)
2. 環境経営方針(Plan)
3. 環境経営組織表(Do)
4. 環境経営目標(Plan)
5. 環境経営計画(Plan)
6. 環境経営目標に対する実績の評価(Check)
7. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容(Check)
8. 環境関連法への違反、訴訟等の有無(Check)
9. 代表者による全体の評価と見直し(Action)

## 1. 組織の概要

### (1) 事業所及び代表者

株式会社 KODAI 代表取締役 小鯛 信之

### (2) 所在地(記載の全事業所が認証・登録範囲)

本社・工場 〒673-0514 兵庫県三木市志染町戸田1838-268  
加古川工場 〒675-0113 兵庫県加古川市平岡町中野288-1

2021年5月より本社機能を加古川工場から三木工場へ変更

### (3) 環境経営管理責任者及び担当者

環境経営管理責任者(統括): 田中 祥之 (常務執行役員)

本社・工場担当者: 大城 正人 (本社・工場 工場長代理)

加古川工場担当者: 本田 英之 (加古川工場 工場長)

### (4) 事業内容

建設機械足回り部品の溶接、機械加工及び組立・塗装  
産業用ロボット部品の機械加工

### (5) 設立

1962年

### (6) 事業所の規模

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
資本金	1500万円	←	←	←	←	←	←	←
売上高	41億円	47億円	59億円	62億円	51億円	40億円	57億円	70億円
従業員数	118人	121人	135人	135人	136人	132人	132人	130人
敷地面積								
加古川工場	17181m <sup>2</sup>	←	←	←	←	←	←	←
本社工場	17000m <sup>2</sup>	←	←	←	←	←	←	←

注1) 事業年度: 5月～翌年4月

注2) 2011年度から三木工場稼働、2019年度に三木第二工場完成

注3) 従業員数は期初の値を示すので、最新の値とは一致しない

### (7) 許認可事項

無し

### (8) 認証・登録範囲

建設機械部品・産業用ロボット部品の製造

## 2. 環境経営方針

### 株式会社 KODAI

#### 環境経営方針

##### 〈環境理念〉

当社は、建設機械部品の溶接・機械加工・組立や産業用ロボット部品の機械加工の事業活動を継続的に続けていくにあたり、「お客様に満足して頂ける製品を創ろう」を合言葉にしています。地球環境保全のために、事業活動に伴う製品サービスに関する環境経営を継続的に推進し、企業の社会的責任として積極的に自然との調和を考え、健全な環境保全活動に取り組めます。

製品に対する要求が例年厳しくなっていく中、人材不足の課題に直面しています。更なる自動化設備の導入を進め、効率化を推進し課題解消を目指します。また新工場の完成により、新たな事業への展開も行っていきます。

##### 〈行動方針〉

当社は、建設機械部品の溶接・機械加工・組立や産業用ロボット部品の機械加工の事業活動を通じて、以下の項目を取組むことを宣言します。

1. 環境関連法規・条例・規則等を特定し遵守します。
2. 環境経営目標を定め、その目標を達成する為に全社一丸となって取組み、目標は定期的に見直して、環境経営の継続的な改善に努めます。
3. 環境教育を実施し、全従業員に対して環境意識の大切さを認識させます。
4. 環境負荷を改善する為に次の事項を重点的に取組みます。
  - (1) 化石燃料の削減(CO<sub>2</sub>排出量の削減)
  - (2) 水使用量の削減
  - (3) 廃棄物の分別の徹底と排出量の削減
  - (4) 電力使用量の削減(CO<sub>2</sub>排出量の削減)
  - (5) 化学物質使用量の削減
  - (6) 仕掛在庫の削減
  - (7) 不適合品の低減
  - (8) グリーン購入
  - (9) 製品への環境配慮  
(自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する項目)
5. この方針について全従業員に周知すると共に、環境への取組みを環境経営レポートとして取り纏め、必要な情報を社会にも公表します。

制定 2013年5月7日

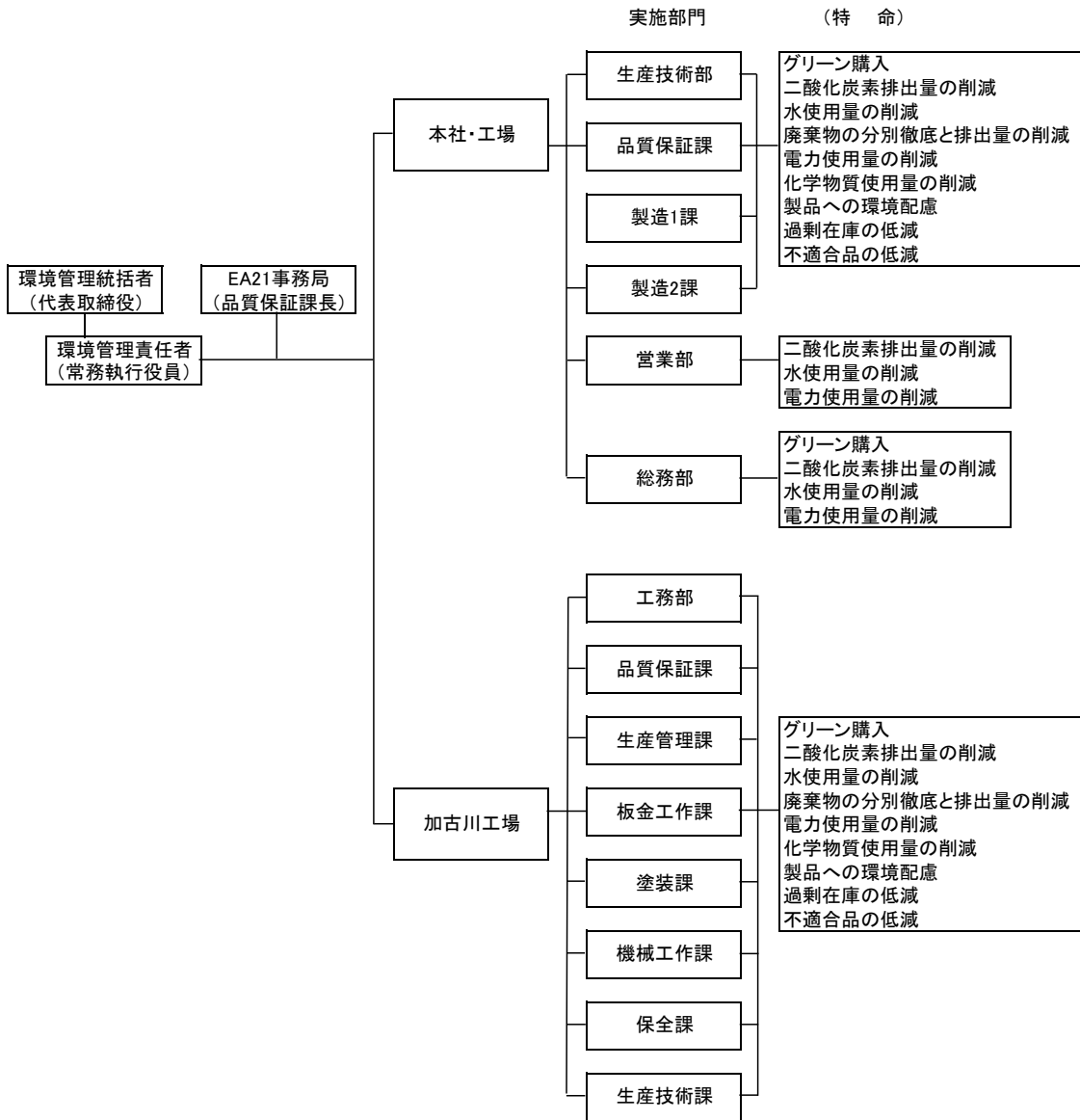
改正 2021年5月1日

株式会社 KODAI  
代表取締役 小鯛 信之

3. 環境経営組織表

# EA21 環境経営組織表

制定：2010年5月7日  
改定：2023年6月1日



職位	役割・責任	権限
環境管理統括者 (代表取締役)	①EA21の最高責任者 ②環境経営方針の制定 ③EA21システムの承認 ④EA21の経営資源の確保 ⑤環境管理責任者の任命 ⑥EA21全体の評価と見直し	EA21の確立・実行・維持・改善に関する 全権限
環境管理責任者	①経営者の代行 ②EA21のシステムの確立・実施・維持・改善 ③保管フロンの管理責任者	EA21の確立・実施・維持・改善に関する 指示の権限
EA21 事務局	①法規制等の把握及び監視測定、届出等、 法規制等の全て ②EA21マニュアルの見直し・改定 ③環境経営レポートの作成 ④環境経営計画の実績把握 ⑤教育・訓練の実施及び記録 ⑥その他環境管理責任者の支援	環境管理責任者の指示により、左記に 関する事項の全部門に展開する権限
EA21部門責任者 (各部門長)*	①部門のEA21に関する業務を確立・実行・ 維持・特命事項	左記の事項に関し部署内従業員に対し 指示、フォローする責任と権限
社員	手順・ルールを遵守する責任・特命事項	—
共通	①環境改善の提案 ②当該環境改善の実施	—
製造会議	毎月1回開催し、目標の達成状況及び 活動計画の実行状況を審議	環境コミュニケーション 情報伝達

#### 4. 環境経営目標

##### 1) 中期環境目標(本社工場・加古川工場)

##### 環境経営目標(自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する取組)

項目	年度	基準年度	目標				
		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
		2019年比>>>>	△0.5%	△1.0%	△1.5%	△2.0%	△2.5%
売上高 (100万円あたりに換算)	100万円	5148					
二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub> /原単位	486	483.57	481.14	478.71	476.28	473.85
一般廃棄物	kg/原単位	-2.7	2.69	2.67	1.36	1.35	1.35
産業廃棄物	t/原単位	0.0724	0.0720	0.0717	0.0713	0.0710	0.0706
水使用量	m <sup>3</sup> /原単位	0.688	0.685	0.681	0.678	0.674	0.671
化学物質使用量	kg/原単位	9.98	9.93	9.88	9.83	9.78	9.73
購入電力	kg-CO <sub>2</sub> /原単位	454.29	452.02	449.75	447.48	445.20	442.93
化石燃料	kg-CO <sub>2</sub> /原単位	-24	23.88	23.76	34.76	34.59	34.41
資源使用量	t/原単位	-3.15	5.88	5.85	5.82	5.79	5.76
製品生産量	t/原単位	-3.11	5.83	5.80	5.77	5.74	5.71

※黄色塗りつぶしが基準値

自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する項目(部品の製造のため)はないので、数値目標は設定せず行動目標とする。

グリーン購入は毎年一品目増やすことを目標にする。

注1)削減率は2019年比としているが、基準年度は5月から4月までの実績値で算出している。

注2)フロン保有量/原単位は、売上げに左右されて達成度が大きく変わってしまうので、フロン保有量の調査は毎年行うが、環境経営目標より2021年度から削除した。

注3)資源使用量は、金属(鉄)、溶接ワイヤ、切削液、潤滑油、防錆油、紙をいう。

注4)資源使用量、製品生産量は、2020年に海外出荷分を含んでかなり増加したことを受け、基準年度を2020年度としている。従い、削減比率は表とは合っていない。

注5)一般廃棄物と化石燃料は、目標値と乖離が見られたので基準年度を2022年度に変更した。従い、削減比率は表とは合っていない。

注6)電力によるCO<sub>2</sub>排出係数は、0.585kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用している。

##### 2) 2023年度の目標設定

2023年度は、2022年度の結果を基本として見直しをかけ、基準年度として再設定する。

## 5. 環境経営計画

### 主な環境活動取組内容

No.	取り組み項目	活動計画実施の内容
1	電力量の削減	1. 空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃) 2. 持ち場離れ時の節電励行の呼掛け 3. 空調フィルターの定期清掃 4. 休憩時間の消灯徹底 5. 残業時間削減の取組み推進 6. 使用電力量の公表・掲示 7. 板金製品の中国からの輸入推進
2	化石燃料の削減	1. エコ運転励行の呼掛け 2. 燃料記録徹底と社内公表 3. アイドリングに関する取り決め 4. 車両の点検励行(定期・始業)及び記録
3	一般廃棄物の削減	1. ゴミ分別の徹底(分類及び場所の指定) 2. ミスコピー防止啓発、裏紙の再利用の徹底 3. 多量コピーの削減検討、ペーパーレス会議の推進 4. 段ボール、雑古紙の無料回収推進 5. 機密書類の無料持ち込み推進
4	産業廃棄物の削減	1. 分類及び場所の指定 2. 廃棄物処理量の社内公表 3. 年間を通じての啓蒙活動 4. 作業ミスによる不適合品増加の抑制 5. 切削液や洗浄、化成処理液の濃度管理による排出量の削減
5	水道水の削減	1. 節水励行の呼掛け 2. 車両洗車の適正化 3. 使用水道量の公表・掲示 4. 切削液や洗浄、化成処理液の濃度管理による使用量の削減
6	化学物質使用量削減	1. 塗料膜厚の徹底管理 2. 化成処理工程の条件管理 3. 作業ミスによる使用量増加の抑制 4. 主要物質使用量の監視
7	グリーン購入推進	1. 事務用品での購入推進 2. コピー再生紙の利用 3. グリーン商品購入比率の把握・社内公表
8	環境に配慮した生産活動	1. 朝のミーティングにて不良発生 の周知と注意掛け 2. 不適合品伝票を利用し、原因追究、対策を実施し再発を歯止め 3. 月1回品質会議を行い、品質改善活動による品質向上 4. 関連工程リードタイムの確認と見直し 5. 月末在庫カウントし、数量調整 6. 外注会社と連携し、委託工程の工数短縮検討 7. 会社敷地の清掃活動(毎週水曜日に実施) 8. 環境測定実施(粉じん、特定化学物質、有機溶剤) 9. 環境測定実施(振動、騒音) 10. 環境測定実施(排ガスVOC)



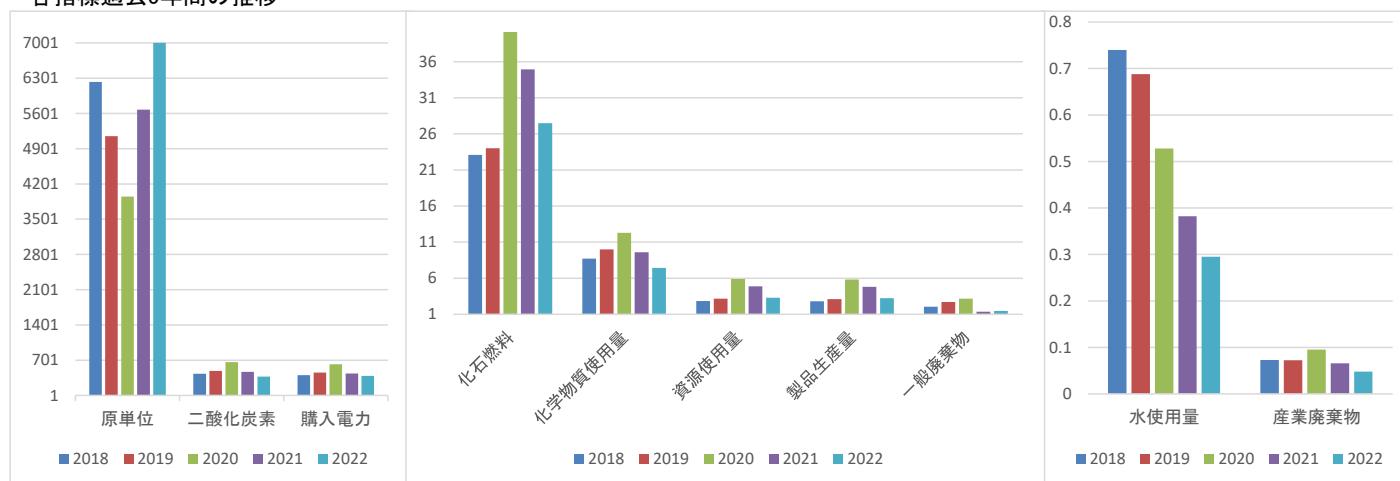
## 6. 環境経営目標に対する実績の評価

2022年度(2022年5月～2023年4月)の結果、年度目標(2022年5月～2023年4月)に対する達成度

No.	項目	単位	2022年度 2022.5～ 2023.4	2021年度 2021.5～ 2022.4	2020年度 2020.5～ 2021.4	2019年度 2019.5～ 2020.4	2018年度 2018.5～ 2019.4	前回達成 度%(結 果/目標)	今回達成 度%(結 果/目標)	前回 評価 (○/×)	今回 評価 (○/×)	今年度 目標値
1	原単位	100万円	7004	5676	3948	5148	6224					
2	二酸化炭素	Kg-CO <sub>2</sub> /原単位	375	469	662	486		97	78	○	○	479
3	一般廃棄物	kg/原単位	1.45	1.37	3.15	2.70	2.06	51	107	○	×	1.36
4	産業廃棄物	T/原単位	0.0479	0.0657	0.0954	0.0724	0.0731	92	67	○	○	0.0713
5	水使用量	m <sup>3</sup> /原単位	0.295	0.382	0.528	0.688	0.740	56	44	○	○	0.678
6	化学物質使用量	kg/原単位	7.43	9.88	12.30	9.98	8.71	100	76	○	○	9.83
7	購入電力	Kg-CO <sub>2</sub> /原単位	390.45	434.37	619.66	454.29	401.83	97	87	○	○	447.48
8	化石燃料	Kg-CO <sub>2</sub> /原単位	27.48	34.93	42.75	24.00	23.10	147	79	×	○	34.76
9	資源使用量	t/原単位	3.28	4.88	5.88	3.15	2.85	83	56	○	○	5.82
10	製品生産量	t/原単位	3.24	4.80	5.83	3.11	2.80	83	56	○	○	5.77

注: 2022年度二酸化炭素総量: 2628010.16Kg-CO<sub>2</sub>

### 各指標過去5年間の推移



## 7. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容

- 2022年度は2019年度と2020年度と2022年度の各指標を基準にして評価している。2022年度はエンジンの供給不足により前半は生産が落ち込んだが、年度を通しては当初立てた売り上げ目標に対してクリアすることとなった。その中で、環境経営目標に対して一般廃棄物以外は目標をクリアすることが出来たのは評価することが出来る。来期は生産減となるが、今期同様目標達成に向けて従業員一同で活動していきたい。
- 二酸化炭素排出量は目標をクリアすることが出来た。11月より板金製品の輸入が開始したことで、社内製造の負荷が下がったことが達成の要因の一つになっている。次年度は生産もかなり落ち、また両工場共にLEDに交換工事を行ったことによる効果も表れてくると思うが、在庫の適正化を行い、加工時間や溶接時間の短縮、夜間無人加工のアイテム増加、輸入化の促進、作業の効率化を行い、更なる削減に取り組んでいく。
- 購入電力に関しては目標値をクリアすることが出来た。無駄な残業を控え適切な勤怠管理が出来た事が達成の要因と考える。来期は生産数量が落ち込むが、持ち場離れ時の消灯の徹底、コンプレッサを停止させる、省人化・無人化を促進し無駄な残業を減らすよう引き続き推進していく。
- 化石燃料については、生産の減少に伴いトラックでの輸送回数が減ったことで目標をクリアすることが出来た。来期は今期より生産が落ち込むので、それに合わせた運用を行っていく。
- 一般廃棄物排出量については、目標をクリアすることが出来なかった。生産は減少したが、空いた時間で4Sを行ったことで、廃棄物増加に繋がったと考える。来期もゴミの分別を確り行い削減に努めていく。
- 産業廃棄物排出量については、目標をクリアすることが出来た。塗装量の減少に伴い、廃液等の回収量が減少したことが達成の要因と考える。塗装系以外の産業廃棄物については本社工場のゴミの分別開始に伴い増加している。今期はある製品で11月より海外からの輸入が開始したが、それに使用している木パレットを別で再利用して廃棄物の削減になっていることも達成の要因の一つとなっている。来期は生産が落ち込み、普段出来なかった清掃に取り掛かるので多少増加すると思われる。
- 今年度の水使用量は目標を達成出来ている。海外向けの出荷数が下がったこと、ある製品でのフェーズアウトがあったことが達成の要因と考える。来期は生産数量がかなり落ち込むので、出来得ることをしっかり行い削減に取り組んでいく。
- 化学物質使用量は目標値をクリアする結果となった。顧客によっては生産量は増えているが、逆にフェーズアウトもあり塗装する製品が減ったことが達成の要因となっている。今後も作業者の教育を適宜行い、誰が塗装しても適正な塗膜を維持管理出来るよう取り組んでいく。あと顧客とコストダウンの一貫で打ち合わせも行っており、使用量が減るような提案を実施し削減を推し進めていく。
- 物質使用量・製品生産量に関しては、今年度は目標値をクリアすることが出来た。生産生産量は前年度より17%減少だったが、売上げは22%増加している。中型機種より大型機種の生産が伸び、売上げが増加したことが達成の要因と考える。
- 今期も不安定な状況下にあるとが、2022年度の環境経営を継続する。



## 8. 環境関連法への違反、訴訟等の有無

1) 法的遵守義務を受ける主な環境関連法は次の通りである

法規名	実施事項	改正年月日	レビュー実施日	遵守状況
グリーン購入法(法律第100号)	グリーン購入法適合品購入の推進	2021.5.19	2023.1.31	○
廃棄物処理法(法律第137号)	事業者の産業廃棄物の処理・保管、マニフェストの管理	2022.6.17	2023.1.31	○
騒音規制法(法律第98号)	環境測定(第三者により年1回)	2022.6.17	2023.1.31	○
振動規制法(法律第64号)	環境測定(第三者により年1回)	2022.6.17	2023.1.31	○
化審法(法律第117号)	特定の化学物質使用量の把握	2022.6.17	2023.1.31	○
フロン排出抑制法(法律第64号)	業務用冷凍空調機器等の定期点検	2022.6.17	2023.1.31	○
PRTR法(法律第86号)	特定の化学物質の排出量等の把握と届出	2002.12.13	2023.1.31	○
水質汚濁防止法(法律第138号)	各種廃液により水路汚染の防止、自主管理	2022.6.17	2023.1.31	○
大気汚染防止法(法律第97号)	ばい煙発生施設の設置届	2022.6.17	2023.1.31	○
悪臭防止法(法律第91号)	塗装排気、切削油の腐敗防止	2022.6.17	2023.1.31	○
労働安全衛生法(法律第57号)	労働災害防止、安全衛生管理	2022.6.17	2023.1.31	○
消防法(法律第186号)	消防訓練、消火器の点検	2022.6.17	2023.1.31	○
高圧ガス保安法(法律第204号)	高圧ガス容器扱い	2022.6.22	2023.1.31	○
毒物及び劇物取締法(法律第303号)	少量硝酸の扱いについて	2022.6.17	2023.1.31	○
兵庫県環境保全条例(条例第28号)	規制基準の設定、規制基準(排出基準・設備基準)の遵守	2019.10.7	2023.1.31	○
環境基本法(法律第91号)	事業者の責務	2021.5.19	2023.1.31	○
循環型社会形成推進基本法(法律第110号)	事業者の責務	2012.6.27	2023.1.31	○
加古川市環境基本法令(条例第1号)	事業者の責務	2000.3.30	2023.1.31	○
三木市環境基本条例(条例第2号)	事業者の責務	2000.3.29	2023.1.31	○

## 2) 違反・訴訟等

環境関連法規の遵守状況を確認した結果、過去3年間違反はありませんでした。

また、関係機関等からの指摘や、利害関係者からの訴訟や苦情もありませんでした。

環境法令リストを作成し、適用条項の内容の改廃を毎年フォローしている。

9. 代表者による全体の評価と見直し

代表者による全体の評価と見直し	
実施日	2023年6月23日(金) 13:00~13:30
場所	本社3F会議室
出席者	小鯛社長、永松専務、田中常務、本田執行役員、大城工場長代理、小林副工場長
使用した資料	環境経営関係資料
評価	<p>昨年度は、顧客の部品調達が上手くいまず、前半は生産が落ち込み厳しい状況にあったが、後半は持ち直し売り上げ目標をクリアすることが出来た。各項目の目標値も一定数以上クリア出来たことは評価出来る。今期も目標を達成出来るよう全社で取り組んで欲しい。</p> <p>皆さんも知っていると思うが、電気代が非常に高騰し経営を圧迫している。本社は2022年10月に、加古川は2023年3月に工場の照明をLEDに変えたので今期にそれが反映されてくると思うが、更なる節電に取組み電力負荷を下げるようして下さい。コンプレッサは夏場は休みなく動いているので、各現場でエア漏れが無いかも確認し負荷を下げる。今期は売上が前期より落ちるので、投資による削減は難しいが、従業員の協力は不可欠なので各課で出来ることは推し進めて下さい。</p>
見直し	<p>今期も客先によっては生産数量に増減があります。設備負荷の高い製品は違う設備に振り、各設備で無駄な残業にならないよう適切な勤怠管理を行って下さい。生産量が落ち込むので、現場改善を行うチャンスでもあります。省人化・無人化を促進するような改善をお願いします。</p> <p>あと今期は前期に比べ大幅に売り上げが減少したので、適切な在庫管理をして下さい。現在中国の材料がかなり値下がりにしているため、中国からの輸入アイテムを増やすと同時に材料レベルでの輸入も検討すること。そうすることで、環境負荷の削減に繋がります。前期の結果をもとに、乖離のある項目については目標値の見直しを行って下さい。</p> <p>今期も、環境経営方針、環境経営目標、実施体制は引き続きこのままで進める。</p>
指示事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>①人員、残業の適切な管理</li> <li>②省人化・無人化の促進</li> <li>③在庫の削減</li> <li>④板金製品の中国からの輸入促進</li> <li>⑤中国材料の輸入促進</li> <li>⑥乖離のある項目について目標値の見直し</li> </ul>
<p><b>2023年6月23日</b>  <b>株式会社 KODAI 代表取締役 小鯛 信之</b></p>	